

## 空き家問題を どう解決していくか



松岡 清悦 議員

**質問** 空き家対策で条例が制定され、空き家解体も進んできたが、解体費用の高いことや解体し更地になることでの固定資産税の増額など問題点もあるが町の考えは。

長崎県では寄付として引き受けて町の振興に役立てているほか、横手市などは雪捨て場に行っている。このような取り組みを検討できないものか。

**答弁(町長)** 町内では約300件の空き家をデーターベース化し、建築士による危険度判定、耐震

質問

わが町の大半が

### 膨大な林業資源を どう活用するか

膨大な林業資源をどう活用するか

が、使用目的が定まらない受け入れがたい物件は、適正に判断しなければならぬ。

診断などを計画している。所有・管理者の意向を確認し「空き家バンク」への登録を促していききたい。

解体費用の助成は国の空き家除去に関する支援制度の活用を検討し、当町に適した助成制度を施行できればと考えている。固定資産税については、空き家を解体し更地にした場合、住宅用地特例が適用されず、税負担が増えることになることから、解体指導時の確認で適正な課税に努める。寄付行為については、公益的に必要であれば可能だが、使用目的が定まらない受け入れがたい物件は、適正に判断しなければならぬ。



この財産をどう活かすか

山林である。この山林は先代が行政指導の下、杉を植え、手入れして作り上げた財産である。現在200万㎡の材積が眠っていると予想され、その材積を現在の単価に換算すると約71億円という金額になり、40年前は約10倍だった。

今、林業は低迷しているが、全国には林業で産業振興している事例もある。林業の先進地に学び八峰町の林業を再生する考えは。

**答弁(町長)** 振興策については、「八峰町森林整備計画」を策定し、森林組合や林業公社など林業事業者が主伐や間伐の施策を実施することになっており、町有林においては定期的な間伐除伐の実施のほか、分収林契約者からの依頼により入札を執行しての販売も実施している。木材価格の低

## 電動アシスト付自転車購入費を 補助する考えないか



すでに鹿児島市や桐生市など購入を補助しているところもある

**質問** 当町の30年後の人口は50・8%の4179人となり、2人に1人は65歳以上と推計される。町として存在するには町民の健康を維持し、足腰が衰えても積極的に活動ができ、高齢者自ら快適



山本 優人 議員

な移動を可能とする安全な道路や、その移動手段の提供を行い、外出したくなる町づくりが必要と考える。今後の町づくりの計画は。

電動アシスト自転車は今後高齢者の足としての重要性は高く、町として推進すべきと考えるが、購入の補助金又は資金の貸付を行う考えはないか。

**答弁(町長)** 「健康はつぼう21」計画で、今後も様々な施策を通して、高齢者がいきいき暮らせる環境づくりに努力し、高齢者に限らず歩行者の安全を確保するため、交通量の多い箇所や危険な箇所等を調査して整備に努力したいと考えている。

電動アシスト自転車の推進については、高齢者が利用するための安全性や購入価格等、町で購入費を補助して普及推進することについては、実施

### 沿岸漁業に 支援を

事例の研究や当町での実施条件、有効性等、まだまだ研究の余地があると思うので、現段階では考えていない。

**質問** 漁業に占める燃料費は人件費に次ぐ大きな経費であり、乗組員の賃金は燃料費の上昇によって歩合給が減少する結果を招き、所得が増えない産業には参入する若者がいなくなってしまう。困窮する漁業の支援策については。

漁船漁業の新規参入には現在乗組員として漁業に従事している若者の雇用維持と所得確保のため、磯根資源のアワビ・岩ガキ・ナマコなどを増産する施設、漁礁の設置を進めることが重要である。その計画はあるのか。船外機等の購入支援の

考えはないか。

**答弁(町長)** 国では緊急対策として、燃油価格が一定の水準を超えた場合には、価格上昇分の4分の3を負担する方針を固め、来月から実施されるので、町独自の支援については今のところ考えていない。

昨年度から平成27年度までの計画で岩館小入川漁場にハタハタ増殖場を整備しているほか、来年度から平成29年度までの4年計画で、八森漁場にアワビ等の増殖場を整備する計画で、磯根資源の増殖対策も実施される。

船外機等の購入支援は、部分的に補助するよりも、担い手を育てる就業上の助言をするなど、経営指導も含めた総合的対策がより重要と考えるので、漁業関係者の意見も聞きながら何が支援出来るのか検討していく。